
巨理町震災復興基本方針

安全・安心・元気のあるまち 巨理

～ 巨理らしさを守り・生かした 町民が主役の 復興まちづくり ～

平成23年9月5日

巨 理 町

目 次

1 趣 旨	1
2 基本理念	2
3 復興に向けた基本的な考え方	2
4 復興の基本方針	3
5 津波防災対策の考え方	3
6 計画期間	5
7 計画期間における復興施策の体系	6
参考資料	9
(1) 組織体制	9
(2) 策定スケジュール	11
(3) 減災社会の構築に向けて（地域の災害につよいまちづくりのために）	12

1 趣 旨

平成23年3月11日発生した東日本大震災は、日本観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した大地震と大津波により、かけがえのない尊い生命と財産、これまで築き上げてきた歴史的、文化的財産をも奪い去るとともに、市街地や商業・観光施設、農水産業施設、住宅、交通網、行政機能など広範多岐にわたる地域の社会的機能が壊滅的となり、社会経済活動に甚大な被害をもたらしました。

本町においても、震度6弱を記録し、この地震により町民297名の尊い命が奪われ、5,500棟を超える住宅などの全半壊・一部損壊を被るとともに、町の公共施設や道路・河川、海岸など社会インフラ、農水産業施設などを含め、3,353億円(現時点での推計)を超える被害額となっています。

町では、今回のかつてない大震災の猛威や恐ろしい経験を謙虚に受け止め、一刻も早い、被災者の生活再建を図るとともに、被災地域の復旧・復興はもとより、新たな町の再生と発展を目指し、町民が安全で安心して暮らし、働くことのできるまちづくりに、町民と力を合わせ全力あげて取り組んでまいります。

このことから、本町の復興に向けた取組の基本的な考え方を明らかにするとともに、復興に向けたまちづくりを推進するため、「亙理町震災復興基本方針」を定めるものです。

2 基本理念

安全・安心・元気のあるまち 亶理

～ 亶理らしさを守り・生かした 町民が主役の 復興まちづくり ～

「安全・安心」

災害に強いまちづくりの構築を行うとともに、保健・福祉・教育の各分野における安心のまちづくりを推進し、生涯を託せる安全・安心のまちづくりの確立を目指します。

「元気のある」

広域仙台都市圏南部の交通要衝に位置する地域特性・産業を生かし、山、川、里、海のある美しい自然環境に恵まれたまちを誇りに、元気・活気のある産業拠点のまちづくりを推進します。

3 復興に向けた基本的な考え方

今後の復旧・復興に向けては、以下の3つを基本的な考え方として取り組みます。

「復旧から復興へ」

原状に戻すという「復旧」だけでなく、震災前以上に元気なまちの再構築を図るとい
う「復興」を目指します。

「町民が主役」

宮城県内の市町村で初めて制定した「亶理町まちづくり基本条例」の理念である「町
民が主役」のまちづくりを基本に、復旧・復興に取り組みます。

「亶理らしさ」

山紫水明の地としての自然環境や、亶理伊達家の城下町としての歴史をはじめとする
多数の文化財や歴史的景観など、先人たちのまちづくり、産業づくりを継承し「亶理
らしさ」を守り、生かし、次世代へ引き継ぐ復興まちづくりを推進します。

4 復興の基本方針

復興に向けて、以下の3つを柱として、これに基づき具体の施策・事業を進めます。

基本方針1 「安全」と「安心」を確保するまちづくり

基本方針2 「暮らしやすさ」と「亙理らしさ」があふれるまちづくり

基本方針3 「なりわい」と「にぎわい」のまちづくり

5 津波防災対策の考え方

東日本大震災による被災状況や海辺に低平地が広がる本町の地形的条件などを踏まえ、津波防災対策については、ハード・ソフトの両面の策を講ずることにより、大津波が起これば生命が守られる、安全・安心なまちづくりを目指し、次のように定めます。

(1) 津波から「まち」を守る防潮対策(多重防御)

① 海辺の防潮対策

- 離岸堤などの復旧・建設
- 河川・海岸堤防施設及び海岸防災林の整備
- 自然と共生した人工丘（緩衝地帯）の整備

② 内陸の防潮対策

- 高盛土構造による主要交通施設などの整備

(2) 津波から「生命」を守る避難施設・避難路の整備

① 避難施設などの整備・確保

- 避難施設の復旧・整備
- 津波避難ビルの復旧・整備
- 防災拠点施設及び防災総合公園の整備

② 内陸部へ迅速に避難できる東西方向の避難路の整備

- 都市計画道路荒浜大通線及び鳥屋崎方面への避難路の整備
- 柴街道線、台田線、中條新道線、五十刈線及び野地流線の道路改良

(3) 防災機能の再構築

① 情報伝達

- 防災行政無線のデジタル化などの推進
- 災害時における防災FM（臨時災害放送局）の活用
- 避難誘導サイン（標識）の整備
- 迅速な避難に向けた災害時要援護者への情報伝達

② 防災教育

- 学校を拠点とした災害に強い地域づくりの確立
(防災教育、被災体験の伝承など)

③ 防災意識の醸成

- 防災、減災対策の啓蒙と地域防災体制（自主防災組織、自治組織など）の強化
- 地域防災計画とハザードマップの見直し

6 計画期間

復興について、復旧期や再生期、発展期を経た10年後の平成32年度を見据えて復興施策に取り組みます。

この計画期間10年を復旧期、再生期、発展期の3期に分けて、それぞれの期間ごとに復興の方向性を設定し、取り組んでいきます。

なお、復興施策は、それぞれを段階的に、又は同時に実施することを想定しています。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
復旧期	→									
再生期	→									
発展期				→						

[参考：第4次巨理町総合発展計画基本構想]

	H23	H24	H25	H26	H27
後期基本計画	→				

復旧期 …… 生活や産業の再建に不可欠な住宅、生産基盤、社会基盤などの復旧に加え、再生・発展に向けた準備を精力的に進める期間

再生期 …… 再生に向けた生活基盤や被災者の支援を充実していくとともに、更なる復興への取組に着手していく期間

発展期 …… 再生期の取組の結実とともに、被災地を含めた地域全体が新たな活力と魅力ある巨理町として生まれ変わり、発展していく期間

7 計画期間における復興施策の体系

基本方針に基づき展開する復興施策の体系を以下のとおり定めます。

(1) 「安全」と「安心」を確保するまちづくり

① 土地利用

- 復興計画及び土地利用グランドデザインの策定
- 安全・安心な町土の再構築

② 防災社会基盤

- 海岸、河川などの保全施設の整備・強化
- 災害に強い道路網の整備
- 上下水道などのライフラインの早期復旧
- 排水機場の機能向上による洪水対策の強化

③ 防災拠点

- 防災拠点施設の整備及び各地区における避難施設（中高層化など）の整備
- 一次・二次避難所の適正配置と備蓄の拡充
- 保育所、福祉施設及び小中学校などの公共建築物の耐震性強化と安全の向上

④ 防災活動・コミュニティ

- 自主防災組織や災害ボランティアセンターへの活動支援
- 常備消防の強化と消防団員の確保
- 広域的防災体制の連携
- 防災訓練による防災意識の向上

(2) 「暮らしやすさ」と「亘理らしさ」があふれるまちづくり

① 住宅・生活

- 住宅確保支援と早期の災害公営住宅の建設
- 災害廃棄物の早期処理と清掃センターの早期復旧
- 仮設住宅などにおけるコミュニティ活動の支援の充実

② 交通

- J R 常磐線（亶理駅～浜吉田駅）の早期再開と狭あい踏切の解消
- コミュニティバスの活用
- 常磐自動車道（亶理～山元間）の休憩施設の整備並びにスマート I C の設置

③ 保健・福祉・医療

- 児童福祉・子育て支援サービスの充実
- 高齢者福祉及び障害者福祉の充実
- 保健・医療・福祉の連携の強化と保健福祉センターの整備
- 地域医療体制の整備充実

④ 教育

- 教育環境の早期改善
- 子どもの心のケア
- 防災教育の充実
- 地域の歴史文化の伝承
- 人と自然が共生する環境創造

(3) 「なりわい」と「にぎわい」のまちづくり

① 農林業

- 農業施設（排水機場など）の早期復旧
- 農地などの早期復旧（除塩など）
- 生産性の向上を目指したほ場の整備
- 農用地の保全と農地集積の促進
- 地域農業の担い手の明確化、将来を担う後継者の育成
- 共同利用施設の構築と生産組織の育成
- 小規模経営農家への支援
- 東北一のいちご生産団地の早期再生
- 観光資源としてのいちご生産団地の構築
- 商品開発の推進とブランド化
- 植樹を通じた林業体験

② 水産業

- 水産施設の早期復旧と漁場の整備
- 仙南地区における中核漁港としての整備強化
- 新規漁業者の育成支援
- 資源管理型漁業の振興対策
- 観光水産業の充実強化

③ 商工業

- 早期事業再開に向けた中小事業者の復旧支援
- 共同型店舗を活用した支援
- 地域特産品の開発・ブランド化による活性化
- 農林水産業と連携した食品加工の構築
- 企業誘致による地元雇用の確保
- クリーンエネルギーの利活用・促進

④ 観光

- 海辺の資源を活かした観光拠点の整備
- 海辺と里・川・山の観光資源との連携
- 鳥の海湾を中心とする体験・交流施設の整備
- 地域資源を活用した雇用創出
- 観光資源の広域的情報発信
- 民間活力の積極的な誘導

参考資料

(1) 組織体制

生活における安全と安心に裏打ちされる町民の笑顔があふれるまちとして復興を目指して、復旧・復興施策を総合的に、そして円滑に推進・調整するとともに、町民や有識者等の幅広い考えや意見を取り入れた復興計画を早期に策定するため、組織体制を強化することとします。

① 震災復興会議

被災者、産業界、学識経験者等で構成する「亘理町震災復興会議」を設置し、亘理町の復興に関し、広く提言等を聴取します。

② 町民参加

復興計画策定において、町民の意見等を幅広く取り入れるために次の取組を行います。

1) 町民意向調査

これからのまちづくりに対する町民の意向を把握するため、復旧・復興の方向性に関して町民意向調査を行います。

2) 町民との意見交換会

町民に対して意見交換会等を実施し、町民への情報提供及び町民からの意見聴取を行います。

3) 各種団体並びに被災地区行政区長との懇談会

今後の復旧・復興について、意見交換を行います。

4) 町民意見公募（パブリックコメント）

復興計画に対する意見公募を行い、広く町民からの意見・情報を募集します。

③ 議会

議会から様々な観点からの意見・提案や情報共有を行うため、全員協議会や東日本大震災復興支援特別委員会において情報提供・情報交換を行います。

④ 庁内体制

1) 震災復興本部

亘理町震災復興本部設置要綱に基づく復興本部を設置し、計画の策定に関して必要な事項を協議し、所要の調整及び推進を図り、庁内の意思決定機関として審議を行います。

2) 課題別検討チーム

各課から選出された職員で構成する検討チームを設置し、課内の調整を図りながら各施策を横断的に審議し、計画素案の検討・調整や復興事業の検討を行います。

①生活安定チーム ②公共施設整備チーム ③産業再生チーム

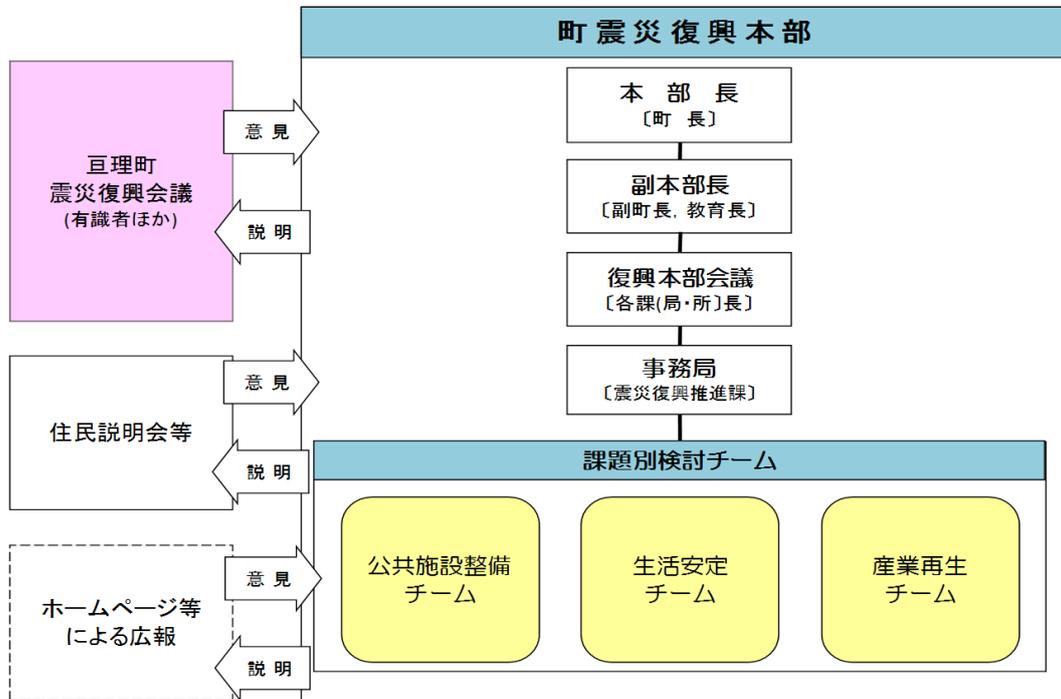
3) 全職員

復興計画策定には、全庁の総力をあげて取り組んでいく必要があり、職員一人ひとりが自覚を持って積極的に計画策定に関わります。

⑤ 国・県との連携・調整

復興に向けた取組には、国・県直轄事業の実施も含め、国・県の主体的な取組や支援を受け、復興計画策定段階から連携・調整を行います。

[巨理町震災復興基本方針・計画の策定に係る組織体制]



公共施設整備チーム

- ・公共施設(道路、公園、学校、福祉施設等)
- ・上下水道(ライフラインの復旧復興)
- ・住宅対策(仮設、公共住宅、分譲等)
- ・市街地復興
- ・都市基盤強化
- ・総合交通対策

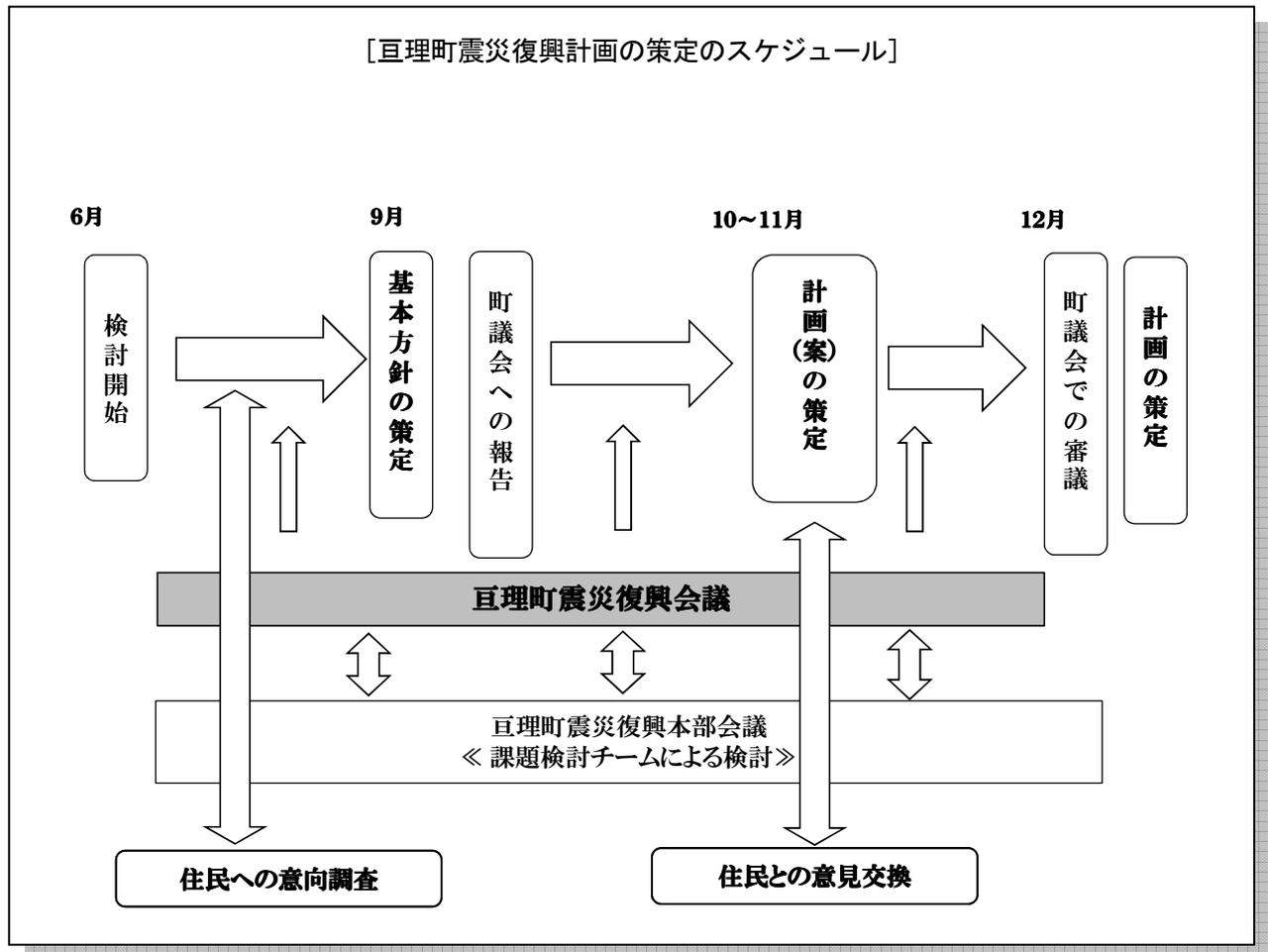
生活安定チーム

- ・生活環境確保(衛生、瓦礫、ゴミ、し尿)
- ・保健、福祉、医療、高齢者、心のケア、健康管理
- ・住宅確保(再建支援)
- ・各種減免措置
- ・乳幼児、児童生徒、教育活動

産業再生チーム

- ・農林業(農地、農業施設、保安林等)
- ・商工業(中小企業、商店街等)
- ・雇用創出、安定雇用
- ・水産業(漁港施設等)
- ・観光
- ・地場産業
- ・産業経営安定と経営基盤強化

(2) 策定スケジュール



(3) 減災社会の構築に向けて(地域の災害につよいまちづくりのために)

平成23年6月22日 第1回亘理町震災復興会議

東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター教授 今村文彦委員 提出資料より

基本理念

極めて甚大かつ低頻度な災害(巨大災害)に対しても、国民の生命と財産に大きな影響を与えることなく、国土・環境・生活を誇り、社会・経済・文化の活動を停滞させないこと

巨大災害への対応(減災)の基本的な考え方

- 将来の巨大災害への対応の基本的考え方は、被害・影響をできるだけ最小化する減災の考えが重要
- 「予想を超える自然現象による災害への対応」「設計値を超える外力への対応」も大切
- 海岸保全施設等津波からの防護のためのハード面の対策のみでは限界。社会での合意を形成した上で、地域に応じて、被災前の防災教育、ハザードマップ等によるリスクの評価と周知、発生後の避難・救急活動等のソフト対策、土地利用規制や津波避難施設、避難路の整備等の安全な地域づくりも重要

津波外力レベルに応じた対策

外力	頻度	考え方	緊急的課題
津波被災(レベル2) (巨大災害)	500年から 1000年に1 度	最低限人命を守るため、海岸保全施設等のハード対策のみならず、ソフト対策、地域づくりを総動員し対応	ゾーニング評価の結果を参考に、地域の特性に配慮した津波に強いまちづくり(予警報・伝達システム、避難計画、要援護者対策、居住地区等の選択、耐波建物・市街地の形成等)
津波防護(レベル1) (中規模以下の通常 の災害)	数十年から 百数十年に 1度	人命及び財産を守るため、ハード対策(新設のほか、既存施設の有効活用、自然力の利用、多重ラインでの対応)を中心としつつ、ソフト対策や地域づくりも適切に組み合わせて対応	海岸保全施設の補強、復旧